

民俗資料館だより

March 31st, 2016

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No. 23

加茂市民俗資料館
館報 第23号

平成28年3月31日発行

編集・発行

加茂市民俗資料館

大正9年8月25日発行

「加茂町案内地図」に見る大正期加茂町の産物

加茂市文化財調査審議会副委員長

長谷川 昭一

はじめに

加茂町は、江戸時代から四・九の六斎市が開かれ多くの人や物が集まり、様々な産業が発達しました。米を原料とする酒や白玉粉、「加茂縞」として有名な綿織物、建具・箆笥の木製品、「加茂紙」と唐傘・元結水引などは、その起源を江戸時代に遡ることができます。

明治維新の激動期を乗り越えた加茂の産業は、^{はぶたま}羽二重を中心とする絹織物、畳の上敷きとしての渋紙、日本最初の販売用マカロニなど、新しい物産も台頭しました。明治30年(1897)の北越鉄道開通を契機に山形・福島など近隣の県から北海道・東京・大阪方面に販路を広げました。明治44年(1911)に加茂町に電気が引かれ、繊維・製材・製紙などの工場にモーターが導入され、機械化が進みました。第一次世界大戦(1914~18)の影響により日本国内が好景気に沸き、加茂も「産業のデパート」といわれるくらい各種産業が大きく発展しました(『加茂市史』資料編3)。

大正9年(1920)の「加茂町案内地図」は、当時の加茂町の状況を一覧できる好資料です。これにより、多彩な産業が花開き、最も活発だったころの産物を紹介します。

1 「加茂町案内地図」について

「加茂町案内地図」は、大正9年8月25日付で若宮町の西長商店印刷部(浅野長作)で印刷、上町の川口書店により定価10銭で販売されました。この年の8月31日から青海神社で、61年に一回の大祭である「六十一年式年祭」が開かれました。これを目当ての参拝客に、加茂町を紹介するガイドブックとして発行されたものです。

表面には、市街略図はじめ、町の概要と沿革、名産・古蹟・先賢者などの紹介が載ります。加茂町概要では、地勢・戸口・交通について大正8年末の数値がわかります。人口は18,083人で、年間の出生が688人、死亡491人でした。当時は、自動車299台のほか荷車978台・人力車44台・荷馬車23台・小回り舟67艘と新旧の運搬手段が混在していました。電話加入者が、僅か110人に過ぎませんでした。

裏面は、広告宣伝の欄で、68の店が載っています。

2 大正期加茂町の生産物

表は、大正8年の加茂町の年間生産額・生産数量です。総生産額は1,098万円で、繊維産業が総生産額の65%・719万円を占め、断然トップの座にあります。2位以下は、日本酒・白玉粉に代表される食品8.9%・97万円、米主体の農産物8.5%・93万円、紙関連6.9%・75万円、木材関連6.6%・72万

表 大正8年(1919)加茂町の生産物一覧

品目	生産量	生産額	占有率
農水産物		934,295 円	8.5%
うるち米	15,640 石	775,744 円	7.2%
もち米	755	37,750	
陸米	8	320	
麦	451	10,313	
大豆	722	22,116	
小豆	59	1,888	
(穀類小計)	17,635 石	848,131 円	7.7%
蘿蔔	12,540 貫	22,308 円	
馬鈴薯	1,058	476	
甘藷	1,518	425	
青芋	17,020	6,808	
蕪蘿	690	117	
葱	1,170	269	
甘藍	1,120	528	
牛蒡	6,806	2,450	
南瓜	3,900	780	
甜瓜	780	179	
茄子	29,220	5,844	
夕顔	315	47	
(野菜小計)	76,137 貫	40,231 円	
梨子	1,980 貫	1,683 円	
桃実	5,630	4,786	
柿	3,920	3,410	
梅	38	1,216	
無花果	48	190	
葡萄	1,300	520	
(果実小計)	12,916 貫	11,805 円	
鶏	4,170 羽	2,706 円	
鶏卵	292,500 個	19,013	
鶯	675 羽	336	
鶯卵	8,700 個	435	
鰻	1,046 貫	10,372	
(家禽小計)		32,862 円	
鮭	140 尾	306	
鱒	800	960	
(水産小計)	940 尾	1,266 円	
繊維産業		7,190,792 円	65.4%
絹織物	84,507 疋	4,206,687 円	38.3%
綿織物	701,763 反	2,687,079	24.5%
(織物小計)		6,893,766 円	62.8%
染物	5,890 反	24,738	
染糸	1,798 玉	12,586	

品目	生産量	生産額	占有率
生糸	1,860 貫	250,000	
真綿	132 貫	9,702	
木材関連		723,288 円	6.6%
杉丸材	2,500 尺	45,020 円	
桐丸材	380 玉	26,600	
杉板材	25,000 坪	75,000	
(素材小計)		146,620 円	1.4%
木羽	5,000 坪	15,000	
建具	110,500 間	181,250	
箆筒	16,800 棹	310,800	
耕作用舟	155 艘	6,510	
荷車	155 台	5,745	
そり製品	5,000 挺	1,000	
履物類	86,500 足	26,455	
鋏柯(鋏台)	3,500 挺	1,500	
桶樽類	7,000 個	14,000	
(木製品小計)		562,26 円	5.1%
木炭	8,100 貫	2,813	
竹製品	24,250 個	8,079	
漆品	33,550	3,516	
飲食品		973,417 円	8.9%
酒類	4,065 石	368,390 円	3.4%
酢・醤油	477	25,575	
味噌	15,000 貫	13,500	
白玉・麺類	54,610 箱	370,170	3.4%
菓子類	45,800	137,400	
飴	350 缶	1,225	
サイダー	9,600 打	17,280	
ラムネ	14,500	13,920	
澱粉	385 斤	327	
牛乳	112 石	5,600	
壳葉	21,000	1,750	
その他食品		18,280	
紙関連		758,230 円	6.9%
和紙	63,650 貫	394,500 円	
粗紙	185,000 丸	110,060	
(紙小計)		504,560 円	4.6%
渋紙	1,000,000 坪	200,000	
桐油紙	2,600 貫	6,080	
ボール箱	17,000	1,360	
造花	5,100	9,180	
唐傘	28,500 本	37,050	
その他		408,490 円	3.7%
蠟燭	8,725 貫	5,671 円	
油類	11,977	66,727	
線香	3,550 箱	13,115	
足袋	12,500 足	11,250	

品 目	生産量	生産額	占有率
化粧品		8,276	
筆	258,000 本	12,900	
柳行李 <small>こうり</small>	450 個	1,260	
藁製品 <small>わら</small>	398,280 貫	87,624	
金属品	18,340 点	51,195	
肥料	38,427 貫	15,307	
畳	2,500 枚	6,500	
瓦	18,000 坪	90,000	
土管類	35,000 本	17,500	
写真	2,300 枚	3,680	
印刷物	570	12,085	
その他雑品		5,400	
生産物総計		10,988,512 円	100%

注 数値は、「加茂町案内地図」により作成。ただし、白玉・
 麺類は、数値 109,220・生産額 740,340 円を「加茂町勢一班」
 の数値より訂正した。

円と続きます。

繊維産業では、羽二重・ろ絹を中心の絹織物が 420
 万円、加茂縞に代表される綿織物が 268 万円の産額
 を誇りますが、その割には生糸などの原材料が少な
 くなっています。生糸は中国産、木綿は大阪摂津産
 でいずれも大阪の商社からの仕入れに頼ってしまし
 た。絹織物は、欧米への輸出物から国内向けに変わ
 り、加茂縞も農村の仕事着から、夜具用の広幅物が
 好まれるようになるなど、転換期を迎えていました。
 大正 2 年の織物工場は 10 工場、自動織機が 308 台
 稼働しており、工場数で県下 1 位、自動織機の数で
 も高田市に次いで 2 位でした（『越後織物史の研究』）。
 このころの織物組合の組合員は 146 人で、1200 人の
 女性が織工として働いていました（「新潟新聞」）。

飲食品では、白玉粉とマカロニなどの麺類が日本
 酒と共に 37 万円でトップを争い、粉菓子などの菓子
 類が続きます。サイダー、ラムネや牛乳など目新し
 い飲み物も生産されていました。農産物は米主体で
 すが、多くの畑作物も栽培されています。今では見
 向きもされない柿が、梨やブドウを大きく上回り、
 鶏の飼育も盛んでした。

紙関連として、障子紙・チリ紙などの 50 万円と、
 加工品の渋紙 20 万円が大きいものの唐傘の製造も少
 なくありません。木材関連産品では、箆筒の 31 万円
 が最も多く、建具が続きます。下駄や桶のほか舟・
 荷車・ソリなどの運搬具まで木で作られていました。

陣ヶ峰瓦の生産地は加茂と田上ですが、加茂町だ
 けで 9 万円の生産がありました。農家の副業の藁製
 品、杉の葉で作る線香、筆や足袋、化粧品・医薬品
 も生産されていました。

館 外 活 動

① 古文書講座

開催時間 午後 7 時～8 時 40 分

会 場 加茂市公民館第 1 研修室

第 1 回

平成 27 年 9 月 2 日（水）

講師 関 正平 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ「加茂の芝居史料を読む」

一般参加者 36 名



関 正平 先生

講座内容 芝居の興行は、庄屋や神主らが、藩に
 願い出てから行った。しかし、一方で藩や幕府が俵
 約を通達しており、藩は厳しく取り締まった。その
 処罰の内容は、おいこみ追込・とじめ戸止め・手鎖・追放・過料など
 というかなり厳しいものであった。

第 2 回

平成27年9月8日（火）

講師 長谷川 昭一 先生

（加茂市文化財調査審議会副委員長）

テーマ「関東大震災における中大谷青年会の活動」

一般参加者 27名

講座内容 至誠会という中大谷青年会の会誌には、大正12年9月1日に起きた関東大震災とそれに係わる同会の動きが記録されている。同会では、広報や支援の物資を送る活動などを協議の上行った。

第3回

平成27年9月15日（火）

講師 佐藤 賢次 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ

「赤穂浪士堀部安兵衛の新発田藩士への手紙」

一般参加者 34名

講座内容 『赤穂浪士史料』下巻（中央義士会編、雄山閣、平成11年）に堀部安兵衛たけつね武庸の越後関係の書状が3通載っている。安兵衛自身が「自反＝自省」の精神を常に大事にしており、まだ若い弥五左衛門に、叔父としてその精神を基にした生き方を説いている。

第4回

平成27年9月24日（木）

講師 溝口 敏磨 先生

（加茂市文化財調査審議会委員長）

テーマ「明治期 加茂郷の治水の取り組み」

一般参加者 32名

講座内容 その昔加茂近辺では、予想もしない上首尾の結果が得られたときに「大でき加茂新田」と形容したという。加茂川流末にある加茂新田は、堤防を越えた水が信濃川の堤防にも遮られて、容易に引かなかったから、「大でき（豊作）」など、思いも寄

らぬ地だった故の表現であった。



溝口 敏磨 先生

第5回

平成27年9月29日（火）

講師 丸山 朝雄 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ

「新発田藩の褒賞と処罰 一鶴森組の史料から」

講座内容 新発田藩では、実直に仕事をする者の身分を引き上げたり、窮状を救ったりする制度があった。また、処罰として戸お（＝自宅謹慎）や追こみ込十日などがあつた。

②歴史講演会

日時 平成27年11月7日（土）

午後2時～午後3時15分

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 丸山 朝雄 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ 「近世からの加茂の河川の変遷」

一般参加者 31名

講座内容

(1) 日本一の長さを誇る大河・信濃川は悠然と流れ、加茂や三条を含む越後平野を潤し、一大穀倉地帯の原動力となっている。しかし、大河津分水などができ治水が安定するまでは、出水や洪水がたびたび起き、川が幾筋にも分かれたり、乱れたりする激しい変遷を繰り返

してきた。

- (2)新潟の蒲原神社の御巡幸に行く、加茂の船の水先案内人は、五反田の人々だった。
- (3)吉津川や布施谷川は、下条地区の重要な用水路であったため、下条の水田は、下条川の東より西側に多く、存在する。
- (4)近代の用水や排水は、機械化が大勢となり、加茂新田一帯の重要な用水路だった布施谷川は、現在は埋め立てられ、工場や商店、運送会社の倉庫などになっている。
- (5)須田地区に関する用水路は、上新田・鶴森と代官島・井戸場の旧信濃川の跡で、川幅は狭かったが有田川という。この有田川は、新飯田・須田地区の貴重な用水として水田、また果樹地帯にとって素晴らしい川だった。かの良寛は、この風景をこよなく愛し、歌に詠んでいる。

③特別歴史講演会

日時 平成28年3月5日(土)

午後1時30分～午後4時10分

会場 加茂文化会館小ホール

講師 寺崎 裕助 先生(新潟県考古学会会長)

テーマ 「新潟県の縄文時代と加茂」

一般参加者 67名



寺崎 裕助 先生

講演内容

I 報告「加茂市の縄文時代の遺跡」

担当 伊藤 秀和 課長補佐

II 講演「新潟県の縄文時代と加茂」

講師 寺崎 裕助 先生

1. 縄文時代とは

- 今から約15,000年前～約2,500年前の1万2,000年余りの間のことをいい、草創期・早前期・中期・後期・晩期の6期に区分されている。
- 発見された多種多様な遺構・遺物から、極めて高度な自然採集活動(縄文カレンダー)を基盤としていた社会であったことが想定できる。
- 長期間このような社会を形成できた最も重要な要因は、“定住生活”を始めたということである。
- 定住することで、まずイエを造り、ムラを営むことが始まった(それまでの旧石器時代の生活は、獲物を追って移動するという遊動生活であった)。
- イエ・ムラを意識することで、イエのナカ・ソト、ムラのソト(ハラ)・さらにそのソト(オクヤマ)という認識がめばえた。
- ムラの営みの中で土器づくりが始まり、食物を煮炊きするようになったことで、可食の範囲拡大や衛生力の向上ひいては寿命の延長をもたらした。
- 高齢者と長期間の生活が可能となり、高齢者の知識(人生経験)が活かされるようになった。

2. 新潟県の縄文時代

- ①世界最古級の土器 ②定住生活の気配 ③土器の個性化(地方化のはじまり) ④土偶の出現、ウルシ・ヒスイの利用、装身具の着用 ⑤縄文モデルムラ ⑥火炎土器の製作・使用 ⑦ヒスイ製大珠の製作・流通 ⑧建物の形態変化 ⑨個性的な土器の終焉と斉一化 ⑩管理栽培の成熟

3. 市内の注目すべき土器と遺跡

- ①水源池遺跡の爪形文土器 ②猿毛山遺跡の繊維土器 ③牛ヶ沢B遺跡の撚糸圧痕文土器と底部刺突土器 ④水源池遺跡の火炎土器 ⑤岩野原遺跡の瘤付土器 ⑥市内一押し陣ヶ峰北遺跡

「おわりに」

- 遺跡については、新津丘陵ぎわや加茂川流域をはじめ新津丘陵近くの新潟平野に所在する遺跡の動向に注目すべきである。
- 山間部や丘陵部においては、最古級の遺跡や遺物が発見される可能性がある。

④出張授業

4月中に加茂市内の七谷、加茂南、加茂西各小学校の6年生を対象に、縄文時代の暮らしについて、実物の土器などを紹介しながら出張授業を行った。

平成27年度の歩み

1 入館者数

平成27年4月～平成28年3月

	市内	市外	計	団体
大人	373	1,043	1,416	4
中学生以下	259	134	393	8
計	632	1,177	1,809	12

2 資料収集の状況

本年度は、6名の方から計百件のご寄贈を賜り、お礼申しあげ、紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

陣笠、鏡、古文書、蓑^{みの}ぼっち、俵編み台、模擬銃、大釜、龍吐水^{りゅうとすい}、海運用の木箱、レジスター

〈寄贈者ご芳名〉

小林 満智様、樋口 清則様、織原 達様
今井 詔一様、目黒 庄三様、金子 祐三様

3 レファレンス・サービス及びアンケート調査 (民俗資料館への問合せ)

①レファレンス・サービス (76件)

- ・今から120年位前の箆笥の画像があれば、送ってほしい。
- ・福島県の土器の鑑定をしてほしい。
- ・高柳城跡の写真を提供してほしい。
- ・古文書を読める人を紹介してほしい。

②来館者の声

- ・2階の展示室は、昔の生活状況を知る大切な(貴重な)品物があり、凄いです。加茂の歴史を感じました。
- ・この建物そのものに味があり、とても落ち着きました。
- ・地域の発展の契機となったものを、詳しく展示してくれるとなおいいです。

4 博物館実習

- ・9月7日～15日
新潟大学3名、大東文化大学1名

平成28年度の事業予定

○昔の加茂を映像で振り返る会

日時 平成28年8月12日(金)
午後2時～3時30分
会場 加茂市立図書館 視聴覚室
内容 未定

○古文書講座

第1回 9月6日(火) 溝口 敏磨 先生
第2回 9月13日(火) 関 正平 先生
第3回 9月20日(火) 佐藤 賢次 先生
第4回 9月27日(火) 長谷川 昭一先生
第5回 10月4日(火) 丸山 朝雄 先生
午後7時～8時40分
会場 加茂市公民館 第1研修室
内容 未定

○歴史講演会

日時 平成28年11月5日(土)
午後2時～4時
会場 加茂市公民館 第1研修室
講師 長谷川 昭一 先生

○特別歴史講演会

日時 平成29年3月
会場 未定
講師 山崎 完一 先生

平成27年度遺跡発掘調査について

本年の遺跡調査は、開発事業に関連した確認調査が2遺跡、下水道工事に伴う工事立会い調査を3遺跡で行った。

1 岩清水遺跡—中世—

調査地 加茂市大字下条字岩清水地内

調査期間 平成27年6月2日

調査原因 河川改修工事

調査の概要 3か所にトレンチを設けた。砂質土が厚く認められ、下条川による堆積層と考えられる。遺跡は確認できなかった。



岩清水遺跡位置図



岩清水遺跡 3トレンチ

2 中沢遺跡—弥生～近世—

調査地 加茂市芝野地内

調査期間 平成27年10月1日

調査原因 宅地造成工事

調査の概要 3か所にトレンチを設けた。現地表面から約2mほど掘削したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。腐植物層が厚く堆積し、調査対象地周辺は低湿地であったことが推測される。



中沢遺跡位置図



中沢遺跡 3トレンチ

工事立会い調査を行った下条の花立遺跡から古代の土器、狭口の芦ノ出遺跡から中世の珠洲焼が出土した。



花立遺跡



芦ノ出遺跡

資料紹介

陣ヶ峰北遺跡出土の線刻礫について

伊藤秀和

ここに紹介する1点の石製品は平成26年に新潟県県央歴史研究所の池野氏によって陣ヶ峰北遺跡から表面採集されたものである。陣ヶ峰北遺跡は加茂市から田上町にかけての新津丘陵縁辺～沖積地に立地する縄文時代中・後期の遺跡である。平成8年に発掘調査が行われ、夥しい量の土器と磨製石斧、土偶などが出土している。

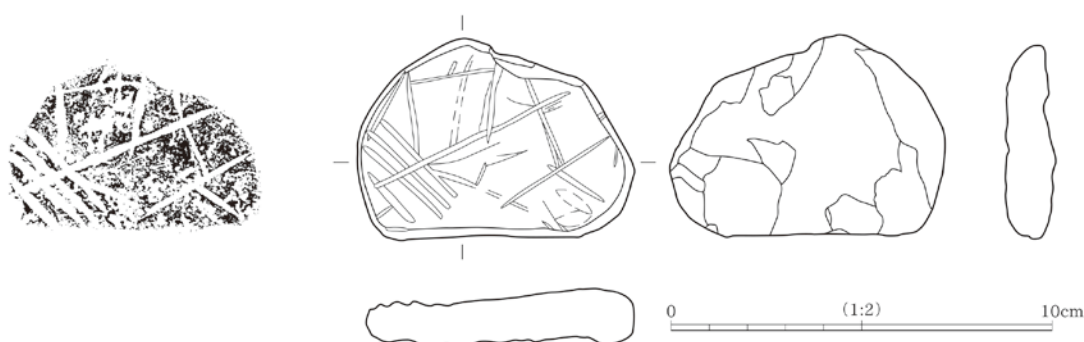
石製品は不整形を呈した扁平な礫で大きさは7.3cm×5.4cmで、重さは61.97gである。石材は凝灰岩で黄色を呈する。裏面は欠けているため不明であるが表面に長短

合わせて12条の直線状の刻みで文様が描かれた線刻礫である。線刻礫は村上市アチャ平遺跡から多く出土しており、文様構成はアチャ平遺跡のC類〔長田2002〕に類似する。縄文時代後期の所産であろう。線刻礫は信濃川流域で類例の無いものであり、その系譜や詳細はわからないことが多い。今後、類例の増加を待って検討が必要である。

報告にあたり、小熊博史氏、長田友也氏、立木宏明氏、寺崎裕助氏から多大なご教示を賜った。記して御礼申し上げます。

引用・参考文献

長田友也 2002 「第V章 遺構・遺物7 石製品」「第VII まとめ7 石製品」『朝日村文化財報告書第21集 奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書XIII アチャ平遺跡上段』 新潟県朝日村教育委員会・新潟県



陣ヶ峰北遺跡出土線刻礫 S=1/2



表面



裏面

編集後記

今回玉稿をお寄せくださいました、長谷川昭一先生に厚く御礼申し上げます。また、本年度貴重な民俗資料を寄贈してくださいました皆様に、重ねて感謝申し上げます。

これからも加茂市内外の皆様に愛される、学習や研究のお役に立てる資料館として、一層努力して参ります。

加茂市民俗資料館

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日、毎月第1,3,5土日曜日
祝日、年末年始
※ 但し、4,5月は月曜日のみ（祝日に当たるときは次の平日）

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1
TEL / FAX: 0256-52-0089
E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp